

二〇二〇年の一月に、廣田守男会長から二月に「日本産科婦人科学会」が開催され、「キ障協」に対して陪席要請のご案内があつたが、日曜日午後に開催、会場が東京丸の内のビルである為、遠方の



滝 川 英 子
キ障協 会計役員

創世記一章三一節

神のなされること

キ障協

No. 44

2023年3月31日
全国キリスト教障害者団体協議会
発行人: 廣田守男
住所: 〒672-8045
姫路市飾磨区中野田4-116-38
電話: 079-235-8819
印刷: リブウェル聖恵
(価格一部50円)

郵便振替口座 00110-7-688014
加入者名: 全国キリスト教障害者団体協議会

役員は出席不可能と思われる為、会場に一番近い私に出席する事を依頼したいと いう事でした。

不適任だとは思いつつ期日が迫つておりましたので、教会役員会に諮り出席の返事を事務局に送りました。

翌月の二月一日の午後、礼拝後に急いで東京丸の内ビルに向かいました。

大勢の女性が列を作り、受付に並んでいました。

用意された大きな部屋の角に、患者の家族とその他の団体の代表者席が用意され、私は陪席者として案内されました。

中央の座席は学会関係者の医師、看護師・助産師など産科婦人科関係の方々で室内は満員でした。

一〇〇名をはるかに超えると思われる方々と報道関係の方々で犇めき状態でした。

その後はコロナ禍のため対面の会議は中止となり、Zoom会議が三、四回開催されましたので、役員の皆様にも御案内させて頂きました。

この会議の事は、TVや新聞など大きく報道されましたので、皆様もご存知のことと存じます。

わされました。が、浅学の私には説明内容を確実に把握する事さえ難しく、示される資料を読み解く事さえ不十分で席にいる事に苦痛を感じましたが、若い女性の医師、看護師・助産師さん達が、生まれ出る生命に対する責任者としての真剣な取り組みを感じさせる活発な意見に圧倒される思いでした。

学会組織委員の自己紹介に続き事務局長により、全国から参集した出席者の紹介があり、私は陪席者として団体名と名前が呼び上げられました。

出席者の多くが女性で、出生前診断の経過説明については、次々の説明に対する確認、承認や疑義の質問が活発に行

中学一年生の時、初めて手にした聖書

から、全ての生命は、創造主である神のみ手によつてなつたとのお言葉を知り大きな衝撃を受けました。

「神は、お造りになつた全てのものをご覧になつた。見よ、それは極めて良かつた。」

このみ言葉には、神の創造物全てに例外が無いことを示しています。人間が例え不条理と思われる事でさえ、み手の業の完全さをお示し下さっています。迷いながらの八〇年の人生を、常に原点に立ち戻させて下さつたみ言葉の一つです。

私は二四歳で結婚しましたが、三〇歳近くになつても妊娠しませんでした。八人きょうだいの一人として私一人が子供を授かる事なく過ごしましたが、一五歳で教会教師に任命されて以来、長年教会学校生活をさせていただに渡り共に教会学校生活をさせていただいた生徒は二〇〇人以上を超え、家族の様に歳を重ねた私にとり、どの子も大切な我が子でしたから、自分の妊娠を望んだことはありませんでした。けれどもある日、夫の両親から「跡継ぎはまだか」と問われたのです。我が家はいつも近所の父子家庭の子供を中心に、子供食堂みたいに学校帰りの子供達がおやつタイム

に続き夕飯も一緒の毎日でしたから、常に大家族で自分の子供が欲しいと思った事がありませんでしたが、これは自己満足であり親不孝な嫁であつたと気付かされ、ハンナの祈りを捧げましたのは三月末の事でした。

四月一日の朝、神様の声が聞こえ、五月一三日に命が宿ると告げられました。妊娠が現実化しそうになり、私は自分が過去に結核患者であつた事から三種の薬の服用を続けており、三ヶ月毎にレントゲンを取り続いている事に気付かされました。この事は胎児にとって好ましい事ではありません。おりしも薬害によりサリドマイドの誕生が取り沙汰された時期でもありました。五月末、定期検診日、妊娠した兆候はまだない私を診察した医師から、何故か今月の投薬を見送る事を告げられた後、レントゲン撮影に回されました。妊娠していると信じる私でしたが、どうやつて切り抜けようか祈りつつ順番を待ちました。すると私の名を呼んだ技師が頭を下げ、たつた今機械が故障したと告げたのです。

神様が私の妊娠を祝し、最善のみ業を用意して下さる事を知り感謝しました。

自己判断で妊娠三ヶ月目の日、産科医院で妊娠を確認する事が出来ました。それからは良い妊婦でありたいと願いつつ、一切をみ手に委ねて生活致しましたが、五ヶ月に入った時、おおきな子宮ポリープが見つかり、医師に、恐る恐る手術するよう勧められました。私は何の不安もなく、「全て先生を信頼してお任せします」と手術を依頼し、翌日には切除して頂きました。順調な妊娠生活でしたが、九ヶ月目を過ぎた頃、先生が「こんな事は初めてです」と顔をくもらせておつしいました。「多くの場合、逆子であつても一〇ヶ月に入ると正常に戻り、普通分娩になるのですが、貴女の場合は、産み月になつた途端ひっくり返つたので、大事をとつて帝王切開手術に切り替えます」と告げられました。

私は神様の最善を信じていましたので「全てを信頼する先生にお任せ致します」と頭を下げました。一週間後、早朝に陣痛がありましたので夫の両親に報告しましたら、「町医者は信用出来ない。紹介状を書いてもらって新宿日赤で出産するように」と厳命され、先生に無礼を詫びながら頂戴した紹介状をもつて新宿

日赤へ参りました。

三時間待たされた上に診察した病院長から、まだ一〇日は産まれないと診断され、やむなく帰宅しましたが陣痛は続いた。普通分娩で誕生しました。深夜見回りに来て下さった先生に聖書を読んでいたのを見つかり、失明する危険があるから安静にと叱られました。主が備えて下さいました。主が備えて下さいました。さつた不思議な出来事に感謝の報告を教会にしましたら、おりしも夜間祈祷会で皆で心合わせて祈つて下さった結果となり、牧師はじめ皆様に感謝申し上げました。

後日、検診で先生をお訪ねした時、「私は五〇〇人くらいの出産に携わりましたが、あなたのような妊婦は初めてです。妊娠中に手術と言つただけでも流れてしまふ人もいる。深夜の帝王切開手術、酸素ボンベ五本を見ただけでも大事に至る場合もある。結核患者でありながら、何の恐れもなく妊娠も手術も受け入れる。

逆子の出産なのに一度も悲鳴を上げたり痛がる様子もない。こんな妊婦はあり得ない。何か特別な人ですか」と聞かれました。結核患者で高齢出産、妊娠中の子

宮手術、出産日、朝五時から夜一〇時過ぎまで陣痛との戦いで声をあげないなんて信じられない。とおっしゃるので、私はミッショントスクールの中学校高校時代に、神様を信じ洗礼を受けてクリスチヤンになりましたから「全てを神様にお委ねしてどんな時にも平安なのです」と言いましたら、私の娘もミッショントスクールに通わせたいとおっしゃるので、まず教会にいらつしやいませんかとお誘いしました。その結果教会に繋がり受験も合格しました。

出産日の朝、与えられたみ言葉は創世記一二章二節から「祝福の基」でしたので、男児誕生を確信し、壁に墨書きした「命名 基」を壁に貼り、家を出ました。

多くの人が私の身を案じ無謀な挑戦であると出産に否定的でしたが、神様が約束した男子誕生を信じ、待ち侘びた結果が、今や一月二十四日に五〇歳を迎えます。

自然界を含め人類の誕生は全て創造主のみ手にあり、このように人間の生命誕生には神様の深い配慮により、例え最悪の状況にあろうとも、最善がなされる

と信じて待ち望む者に祝福を賜る事を証させて頂きます。感謝をもつて主のみ名を褒め称えます。

(日本基督教団 七里教会信徒)

キ障協前会長・顧問

渋澤 久兄

ご召天される



渋澤久兄（本庄教会信徒）が二月六日に肝性脳症のためにご召天になられました。特に機関誌「キ障協44号」発行のた

めご尽力下さつていた最中の訃報です。

渋澤久兄は一九三七年生まれでボリオの障害を負つておられました。元筑波大学付属桐ヶ丘養護学校の教諭を三五年間務められ、多くの障害児を育まれ、定年退官されました。

渋澤久兄は二〇〇二年のキ障協総会で行われた役員改選の際、副会長に選任されました。更にキ障協が発行した『喜びのいのち』一出生前診断をめぐつて』(新教出版社)にも寄稿し、寄与されました。

兼清章キ障協会長が二〇〇四年四月一六日に召天された際には、兵庫県の相生教会での葬儀に埼玉から車椅子で参列下さいり、キ障協を代表して弔辞を述べて下さいました。その直後に開いた臨時役員会で、渋澤久兄が会長代理に選ばれ、同七月の総会にて会長に就任され、キ障協の運営のためと機関誌「キ障協」の発行人としてご尽力下さつていました。そして二〇一八年の総会でキ障協の会長を辞任されても顧問として機関誌「キ障協」の編集とキ障協の記念誌発行のために腐心し、構想を練つて下さつていました。

振り返りますと、今年一月一六日のZoomによるキ障協役員会の席でも率直にご意見を述べて下さつっていました。一月二一日の夜に同兄から突然、「なぜか分からないが、手足が全然動かなくなつた。食事も家族の者に食べさせてもらつている。機関誌『キ障協』の編集が出来ないから誰かに頼んで欲しい」と電話がありました。そこで、電話にて臨時役員会を開き、代わりに櫻井義也先生(キ障協前副会長)に依頼することにしました。

渋澤久兄に「櫻井義也先生が快く引き受けた戴いた」旨連絡しますと安堵しておられました。その後、電話をしたが通じなくなり案じていたところ、訃報のお知らせをメールで受け、驚いた次第です。

濫澤久兄の葬儀は日本基督教団本庄教会で疋田義也牧師司式にて執り行われ、櫻井義也先生がキ障協を代表して弔辞を述べて下さいました。続いてご遺族の上に神様のお慰めをお祈り戴ければ幸いに思います。

キ障協 会長 廣田守男
(日本基督教団姫路あけぼの教会牧師)

寄 稿

「聖書における命と救い」



白 井
進

進

二〇一九年一二月、日本産科婦人科学会から突然に、着床前診断についての意見表明をしてほしいという要望書が、キ障協に送られてきました。以前『喜びのいのち』一出生前診断をめぐつて』に執筆したためか、廣田守男会長より、それが転送されました。その要望書には、着床前診断(PGTM)に関する倫理審議会を開くので、傍聴し、会議後に意見質問、提案をしてほしいと書かれていました。

倫理審議会への案内文書では、「PGTM」とは生まれてくる子どもの遺伝病の有無を調べるために、受精卵の段階で行う遺伝子検査です。日本では法的な規制はな

く、日本産科婦人科学会の一連の見解に従つて二〇〇四年より、『原則として重篤な遺伝性疾患児を出産する可能性のある、遺伝子変異を保因する場合』に限定して、本学会が一例ごとに審査を行い、実施を許可してきました』と書かれていました。

着床前診断に先立つてかなり前から出生前診断が行われてきました。その診断では当初は、妊娠した母体の子宮から羊水を採取して、その中に含まれる胎児の細胞の染色体の数などを調べるいわゆる羊水検査が行われました。また、子宮内の絨毛を採取して検査をする、絨毛検査も行われてきました。

たとえば人は二二一对の常染色体と一対の性染色体を持つていますが、ダウン症児の多くは二一番目の染色体が三本あります。合計四七本の染色体を持つて生まれてきます。この染色体の突然変異は前記などの出生前検査（現在では母体血による新しい出生前遺伝学的検査）によつてその出現する確率が判明することになりました。また、英國の公衆衛生学・疫学の専門家ニコラス・ヴァルドによつて一九七二年の羊水中の研究によつて、羊

水中の胎児蛋白 AFP（アルファフェトプロテイン）の量と、無脳症および二分脊椎症の発生との関連が認められると考えられました。その後遺伝学者デーヴィッド・ブロツクによつて母体血清中の胎児蛋白を指標とする無脳症と二分脊椎との出生前診断が提唱されたのです。それによつて、英國全土で出生前の母体血清スクリーニング（ふるい分け）検査がおこなわれ、多くの妊娠中絶が行われてきました。

そして今日では着床前の受精卵（胚）を取り出し、その胚の細胞の一個を取り出して染色体や遺伝子を調べる着床前検査が行われることが可能になりました。その場合、受精卵はいつから人の命として始まるのかという問題が生じて来たのです。

このような出生前診断及び着床前診

ことが自然であるように思われます。事実英國のスコットランドでの統計によると、一九六八年から一九八五年までに（妊娠中絶のためと思われますが）、無脳症と二分脊椎の人の出生数は激減しました。しかしその結果、それでも生まれてきた人々は、励まし合う仲間が見つけられなくなり、治療や助言を行う医師が激減することにより、孤立の度が増しましたと言われています。

人は子を産む前にその子が障害を持つ確率が高いと聞かされたとき、多くの不安を持ち、怖じ惑うのではないでしようか。特に子どもの時からいわゆる健全な子の中では過ごしていない人には、弱さを持ちつつ生活している子どもたちの生き生きと生きる姿を想像できぬいため、そのような不安はとても大きいと思われます。

昔から人を価値の高い人、価値の低い人に分けて、能力によって人を選別する意見が成り立ちます。医療従事者の立場や医学の研究者の立場からは、生まれつきの病気により、生涯にわたり様々な痛み、困難を負う患者の数を少なくするこ

とが、より良い選択ではないかと考える

こそダウン症の赤ちゃん』を出版し、「お誕生おめでとう。ようこそ、この世界へ！」の序文と共に、一〇〇名の仲間たちの写真とプロフィールを掲載したのです。「産んでくれてありがとう」「生まれてくれてありがとうございます」「生まれ幸せな家族の歩みと写真が載せられた内容は感動を呼ぶことになりました。

その翌年キ障協は『喜びのいのちー

出生前診断をめぐつて』を出版しましたが、それは命の選別への危機意識に基づき、警鐘を鳴らすものでした。キ障協では一九九〇年以降神学研究会が開かれ、総会、機関誌発行が活動の三本柱でした。とくに、神学研究会では、聖書における障害を持つ者の位置づけ、障害を持つ者の存在意義、神の創造と障害を持つ者などがテーマに取り上げられ、熱心に論議が繰り広げられました。当初は筋ジストロフィーの棘を負い、障害を負うものに働く機会を与える印刷事業を始めた牧師の井原牧生氏、二分脊椎の重荷を負い、詩人として歩んだ島崎光正氏、障害を身に負い牧師として牧会に励むとともに障害を持つ者を支え、励ます会を担つた兼清章氏、鈴木實氏などが中心と

なつて会を盛り上げていました。この研究会は参加者自らの実存をかけた共同の学びの機会であり、それぞれが培つてきた神の前の信仰の証の機会でもあります。そしてこのような学びの積み重ねが、出生前診断、着床前診断への問題提起としての書物『喜びのいのちー出生前診断をめぐつて』の出版につながったのでした。

先に述べたように、出生前診断、着床前診断についての考え方には、キリスト者でも様々であり、一つにすることはできません。しかし、その問題点については聖書の視点から指摘する必要があります。まず、障害を持つて生きること自体は不幸ではないという視点を見逃してはならないこと、次に、人に優劣をつける優生思想をまん延させることへの危険性を認識すべきこと、更に、医療従事者、医学研究者が、研究優先になつてはいいなかを自問すべきこと、そして、検査が商業主義に陥らないかを注視すべきことなどが挙げられます。

(キ障協 副会長)



のいのち』を発信する必要があるでしょう。聖書の福音は、全ての人に、神が人を創造した意味と目的を示し、生まれてよかつたと喜びを与え、他者に喜びをもたらす使命を与えるものであります。神が創造した人のうちで、生まれながらその人の生に意味も目的もないものはいません。生まれた者のうちで、価値の高い者も価値の低い者もいないのです。創造主である神を信じるとは、自分に自分にしかない価値が与えられていることを受け入れることであり、共に生きることを認め、その人もそのような価値が与えられていることを認め、その人がその価値にふさわしく生きるように、支え、助けることがあります。

**全国キリスト教障害者団体協議会
(キ障協)は今**

会長 廣田守男

全国キリスト教障害者団体協議会に所属しておられる各団体の皆様、お元気にお過ごしでしょうか。今年も早やントに入り、意義深くお過ごしのこととお察しします。

コロナ禍も今年で四年目を迎えました。キ障協及びキ障協に所属しておられる各団体のお働きの上にも支障を来し、対策に様々と苦慮されたことと拝察しております。キ障協の二〇二二年度の働きは、ワクチンの普及もあり、対面で会合が開かれた団体と全然活動が出来なかつた団体もあります。その中でキ障協としてはZoomによる総会を一回、また役員会を三回、各団体代表者会も三回行いました。その報告を纏めてさせて戴きます。

全国キリスト教障害者団体協議会
二〇二二年度Zoomによる総会

日時 二〇二二年七月五日（火）

午前一〇時～一時四五分

メディア Zoom

I. 開会 廣田守男会長挨拶 聖書 詩
II. 加盟団体状況報告 司会 廣田守男
会長

III. 開会 廣田守男会長挨拶 聖書 詩
編一二一編 祈り

信州なすなの会

機関誌の報告によると、毎年定期的に役員会を行い、各分担を確認しておられる。結成四〇年を迎えるので機関誌の合本を作成したいと願つておられる。

● 定非営利活動法人（NPO法人）兵庫共励会（兵庫共励会）

NPO法人になつて八年目に入る。

昨年度は理事会を対面で四回開いた。九月には拡大委員会を開き、これからの方針について話し合う。一〇月一一

日には兵庫共励会設立五〇年を迎えるので感謝礼拝と座談会を行う。また

今後の活動のあり方、会員の高齢化の問題等、色々と検討する課題を持つている。ランチョンは四月と六月と一ヶ月に開く。会員の訪問が出来なかつた。特記事項としては、前理事の古澤

輝勝兄が召天され、遺言により所有のシオンビル（鉄筋三階建て）を寄贈される。多額の寄付とともに会計の扱い方や使い方について検討する。共励会も設立五〇年を迎えるので、五〇年誌を発行する。

● 東中国キ障共（東中国キリスト者障害者の高齢化についても今後考えていく。

と共に学び共に担う会)

今年もコロナ禍のため研修会や講演会を開くことが出来なかつた。せめて機関誌シャロームだけは充実したものにしようと、自分の教会の様子を伝えてもらつた。難波幸矢会長が関わっている野宿生活の支援の夜回り報告なども掲載した。

● 広障伝（広島障害者キリスト伝道会、欠席のため廣田守男キ障協会長が報告）

会長の剛家さんと連絡が出来なく、役員会が開けないので活動は出来なかつた。

● 四障伝（四国障害者キリスト伝道会）

事務局野口幸生です。ずっと活動が出来ていないが、一〇月一七日に総会を開き三〇名出席され、役員を改選した。丸木道広会長は顧問に、新しい会長にボランティア・オアシスの明石公子姉、副会長・書記に野口幸生師に、会計は松本稔男兄が任を負つて下さる。七月に役員会を開き、二〇二三年

七月三日一四日（月・火）に全国キ障協の総会・研修会を松山・友輪荘で行う事に決定し、諸準備に入つた。全国キ障協役員にもご協力を願いした

い。

● 静岡キリスト教育人伝道センター（準加盟団体、初めて各団体代表者会にご参加下さり感謝）

盲人伝道を主としている。録音と点字による伝道で、貸出をしている。会員は四〇〇名だが、よく利用している人は一〇〇名くらい。どこへでも希望があれば送る。利用者の学ぶ姿に教えられている。

III. 総会 司会進行 廣田守男会長

一、議長選任 廣田守男会長

二、点呼 出席者

○さいたまアーモンドの会（奥田幸平委員長）

○信州なづなのは会（谷口透事務局長）

○NPO法人兵庫共励会（高野国昭法人書記）

○東中国キ障共（難波幸矢委員長、キ障協副会長）

○四障伝（野口幸生書記）

会員七団体・一二名中、上記五団

体五名とキ障協役員・渋澤久顧問、廣田守男会長、滝川英子会計の三名、計八名出席で総会成立を宣言。

○欠席者 白井進キ障協副会長 みちのくコスマスの会議員 広障伝議員

三、総会議事録書記選任 難波幸矢キ障協書記

四、聖書 詩篇一二一篇一節一八節

五、議事

（一）二〇二一年度活動報告承認に関する件
○七月六日午前一〇時一一時 Zoom による総会を開き、各団体の報告を聞く。櫻井義也副会長、二〇年余り擔つて下さつたが辞任された。心から感謝。

○役員選挙だが、櫻井義也先生に代わつて白井進先生に以後は担つて頂く。「喜びのいのち」の編集者 執筆者として関わつて下さる。

○その他、コロナ禍のため修養会が開けなかつたことは大変残念である。

○役員会は四回開くことが出来た。三回は Zoom、一回は姫路あけばの教会において対面で行う。

○機関誌「キ障協44号」について

渋澤久顧問。着床前診断をテーマにするのはいかがか。出生前診断について「喜びのいのち」で現したが、滝川

英子会計の医師との文通もあり、白井進副会長にご尽力頂いて、そのことをテーマに出来るといいと思う。

私たちの原点が命を大切にするということなので、自分たちの問題として基本的な問題として表したい。最近の新聞によると、これまで大きい病院で出生前診断を施していたが、街中の小さい病院でも安易に行つているとあつた。

廣田守男会長。白井進副会長がキ障協役員会の初めにも触れておられた。問題意識を持つておられるのでこの時期に出すのは良いかと思う。役員会でそれを深め、渋澤久さんの編集で行くというので良いでしようか。→ハイ

○記念誌発行について

渋澤久顧問。これまでの機関紙の中からこれと思うものを残しておきたい。主の恵みと私たちの命を再確認したいというところで発行したい。残念なことにこれまで編集データを廃棄してしまっている。再度起こすことは大変。今申し上げたような内容のものを何処まで残せるか心配。何とかクリアして協力いただくという基本的

なところを考えて欲しい。

皆さんの所で、「キ障協」の中でこの文章は残したいと思うものがあれば言つて欲しい。皆さんお持ちの中で四〇号全部そろつているという人もいるかもしれません、そのようなものをを集めて白井進先生、編集に当たって頂きたい。

○修養会について

野口幸生事務局。四障伝の会計も当日来ることが出来ないかもしれないし、書記も事務作業ができないかもしれない。JRの迎えや案内も出来ないかもしれない。実際のマンパワーが、以前のような婦人会の協力も難しい状態。本人の高齢化や家族の介護もある。各教会がバザーも出来なくなつていい状況です。友輪荘が松山にあるが、松山近辺の教会の婦人会の状況が変わってきていて、お願いできない状況にある。各自が友輪荘に来ていただければ開けるかもしれないが。

何はともあれ、来年七月第一の月、火に開くのなら年のは予約しなければならないし、その頃に果たしてコロナ状況がいかがかという心配

もある。

四障伝が開催団体としても、司会・難波幸矢副会長、会計・滝川英子会計という事になるのではないか。友輪荘はシングル部屋がないし四人部屋、大部屋だ。障害によつたら他のホテルをを集めて白井進先生、編集に当たつて考える必要もあるかと。難色を示すかもしれない。

難波幸矢副会長。ホテルの部屋の構造に関しては、岡山での開催の時たしかに障害の重度さによってホテルを、その人が入れるかどうかで探し回つた経験はある。

廣田守男会長。具体的に、来年七月三日、四日を候補として、準備をお願いする。

野口幸生事務局。どのような方々がいらつしやるか知りたいので、早い目に出席者を教えて欲しい。

廣田守男会長。申し込みを早くしましょう。

(二) 二〇二一年度会計決算報告及び会計監査報告承認に関する件

滝川英子会計。予算、決算がこんなに開いたのは初めてです。総会を対面で開けなかつたことが決算に表れてい

ます。詳細は報告書に委ねます。

なお監査報告を以下のように石川幸雄監査委員より頂いております。

(三) 二〇二二年度事業計画(案) 承認に関する件

① 次期総会開催の件

上記、修養会についてのところで提示済み。

② 会報発行(毎年三月発行)

上記、「キ障協44号」の件の所で提示済み。

③ キ障協の略誌を発行する件

上記、記念誌発行の所で提示済み。

④ その他

○ 奥田幸平委員長。各団体からの機関紙は「情報」の欄で出すことが出来る。個別の欄も作れるのでご活用下さい。

○ 廣田守男会長がホストも司会もされるのは大変。どなたかホストをされたらしいのではないか。

各団体、また以前所属していた団体がキ障協から離れる状況にある。前向きに発展するためと考えていかなければならない。

○ 廣田守男会長。ホストは誰になつて

もらつてもいいので、便宜上私がなつてているが、ぜひともなたかしてほしい。手抜かりも出てくるし申しきつないので、変わつて頂きたい気持ちです。ホストはズーム会議一、〇〇〇円と消費税。一年契約しているが、いろんな形がある。良い意見を提案して戴きありがとう。現在、私たちの団体は七団体になつた。キリスト教関係で、障害者の団体はある。カトリックに「力障連」というのがある。奥田幸平委員長の提案を大事にしたい。

(四) 二〇二二年度会計予算(案) 承認に関する件

滝川英子会計が説明する。承認

(五) その他 議事録承認に関する件

総会の議事録はキ障協の役員会に委託することを提案し、議場はこれを承認した。

六、祈祷 難波幸矢副会長

閉会

《隨想》

櫻井義也

私は一九三六年生まれの八六歳です。六三歳のときに重度の狭心症と診断され、手術が必要と宣告されました。丁度年度末で、教会では年度宣教報告を書かねばならず、幼稚園は卒業式が間近、とても入院して手術を受ける余裕などありませんでした。医師に夏休になれば時間が取れるから、七月か八月に手術してください、と頼んだところ、「いいですよ、死んでもいいならね!」とつれない返事が出来ました。卒業式が済んで、新年度計画が出来て、前年度財務決算を県に提出して、入園式を済ませ、五月ではどうですか?と頼み込んでやつとしぶしぶ了解してもらいました。五月になつて幼稚園の母の日礼拝を済ませて翌日、埼玉医大病院に入院。三週間の入念な事前準備検査を受け、六月一日に胸骨を切開して冠動脈バイパス手術を受けました。朝七時に手術室に入つて、麻酔から目覚めたのが夜中の一〇時過ぎでした。手術は成功しましたが、「重度心身障害者」三級となり障害者手帳の交付を受けました。以来、ショ

ウガイシャです。其の後二回も心筋梗塞を発症してその都度緊急入院してカテーテルによるステント挿入術を受けて、危機を脱しました。

二〇一九年秋の発症の時は胸の痛みに意識を失い、救急車で北里大学病院に緊急搬送されて緊急救命手術を受けました。翌朝気が付くとベッドの回りを看護師さんが取り囲み、妻と娘の心配そうな顔を発見。そこに担当医がやつてきて「あと五分遅れていたら危なかつたですな」とのこと。看護師さんは「櫻井さんは危なくあの世に行きかけていたのを、私たち（医師看護師団）が後ろからひつ捕まえてこの世に引き戻したのよ！」とのお話。自分ではそれほど、とは思つていなかつたので、却つてびっくり！ でした。予後は順調で二週間で退院できました。でも内的には爆弾を抱えているようなもので、いつ心筋梗塞を発症してもおかしくはないのです。しかし外見的には何も障害があるとは見えませんから、「お元気そうですね」などと挨拶されるとへドモドして「はい、元気ですよ、ありがとう！」と「元気そうに」振舞うのです。最近、困つてゐるのは「聽覚障害」を

惹き起こしていることです。テレビのドラマでは俳優さんのセリフが半分は聞きとれなくなり、連れ合いとの会話も何度も聞き直すトンチンカンな始末。もつと困つてゐるのは属している合唱団の指揮者やピアニスト、他の団員の話がほとんど分からなくなり、更に困つてゐるのは礼拝説教が聞き取りにくくなつていてのことです。いずれも音声は聞こえているのですが、何か低くくぐもつて言葉が分からぬのです。「補聴器を付けたらどうですか」と忠告され、調べると価額がピンからキリまで、安い物を仕入れてみたのですが、これがくせもので、不要な高音がびんびん聞こえて補聴器を放り出す始末、音量調節をいじくつて更なる雑音に閉口して止めてしまいました。

先日、ある教会の礼拝に出席したのですが、牧師先生の説教は、マスクをしておられるうえに小声で早口、補聴器無しではほとんどわかりませんでした。

普段、説教する立場から考えると、私と同じように耳の聞こえが悪くなつてゐる高齢者が多いに違ひない、だから語り聞こえるように話さなければならぬ、とい、と意識しています。それにしても、その場には耳の聞こえの悪くなつてゐる高齢難聴者がいるに違ひないと、そのことを配慮して、少し大きな声でゆつくりはつきり話しかけることをしない人が多いと思います。何回も聞き返すのが申し訳ないので、分かつたフリをして、こつちも勝手に話していることが多いのです。相互の会話は成り立つていいのです。コミュニケーション障害が惹き起こされているのです。

ショウガイシャは私たちの回りに実は沢山いるのですが、障害者自身も含めて、他者の障害に気づかず、何の配慮もしていない場合があるのです。自分の障害を訴えることは理解を共有する上で大事なことなのですが、同時に他人の見えにくい、気づきにくい障害に気が付いて向かい合の方を十分に考えていくことは重要なことではないでしょうか。そのためには、少なくとも教会内では、もつと「障害」について話し合い、互いに他者の存在に気づき、理解し、大胆に配慮しあう現実を作りだす機会が必要です。

使徒パウロは「互いに重荷を負い合ひなさい」と勧めています。

キ障協総会・修養会

再企画！のご案内

コロナ禍によつて二〇二〇年以来、計画が実行できずにいましたが、感染状況が終息に向かつてゐるので、改めて実施したいと考へました。各加盟団体会員におかれましては、勇躍ご参加くださるようご案内申し上げます。

日時 二〇二三年七月三日(月)～四日(火)

場所 松山市 友輪荘

講師 成田信義氏
(土佐教会牧師、聖泉幼稚園園長、日本基督教団四国教区高知分区区長)

主題講演「この障がいをも賜物として」
自閉症スペクトラムといふ発達障害のある長男と共に生きることを通して、親として学んだり、感じてることを、聖書に照らして分かち合いたい。特にマタイによる福音書二五章一五一二七節から、主イエスにとつて「いのち」

とは？「障がい」とは？共に聖書から聴きたいと思います。

実施団体 四国障害者キリスト伝道会

詳細にわたるご案内は、年度明けの四月ごろにキ障協より加盟各団体に送られますので、加盟団体を通じてお申し込みください。久しぶりの再会の機会です。是非とも多数、ご参加ください。

加盟各団体は二〇二二年度の団体活動報告をまとめて文書にして、総会でご報告ください。よろしくお願ひいたします。



※編集後記※

故渋澤久さんが今年一月下旬に体調の不良を訴えられて、「キ障協」44号の編集が困難になつたので、櫻井に引き継いでほしいとのご依頼があり、事情が事情でしたから、お引き受けしたのですが、原稿が十分に集まらず、しばらく放置しておりました。二月に渋澤さんが召天され、編集が焦眉の課題として迫つてきたので気合を入れて編集作業にかかりたのですが、慣れないせいもあって四苦八苦、何とか集まつた全原稿を揃えて、編集を終えることが出来ました。完成したのでやれやれと思っていたら、廣田会長から電話で、「一部の記事が違う原稿だつたので差し替えを」と指示されて、再度の編集とそれで生じた余分の空欄穴埋め記事挿入と、ちょっと大変でした。羅列的に原稿を並列したに過ぎないのですが、一二ページにおよぶ大部になつてしましました。あちこちに不備があるかと思いますが、すべて編集者の責です。今は天にある渋澤さんの上に主の御ねぎらいを祈ります。

桜井義也 (キ障協前副会長、
「キ障協」誌編集担当)

